

Oracle Cloud EPMにおける Account Reconciliation（勘定 科目照合）

Account Reconciliationは、Oracle Fusion Cloud EPMで利用可能な専用の業務プロセスであり、グローバルな照合プロセスの管理を目的として設計されています。このプロセスでは、照合業務のパフォーマンスをリアルタイムで可視化し、作成されたすべての照合業務が適切に実施されていることを確認します。また、大量のトランザクションの照合や差異分析など、特定の照合作業を自動化することで、パフォーマンスの効率化と最適化を支援します。Account Reconciliationには、Reconciliation ComplianceとTransaction Matchingという2つのモジュールがあります。

Reconciliation Compliance

Reconciliation Complianceは、照合作業のトラッキングとパフォーマンスを管理します。Reconciliation Complianceは、勘定科目が適切なフォーマットを使用して、完全な妥当性をもって照合されていることを確認します。承認ワークフローでは、サインオフのエビデンスを取得し、電子メール通知によって、チーム全体で追跡できるようにします。



統合的なドキュメント・リポジトリによって、補足文書に確実にアクセスでき、グローバルな監査とそのアクセスが可能になると同時に、照合の消失やエラー発生が起きないように設計されています。

Reconciliation ComplianceのリスクベースCopyright © 2021, Oracle and/or its affiliates /Publicです。

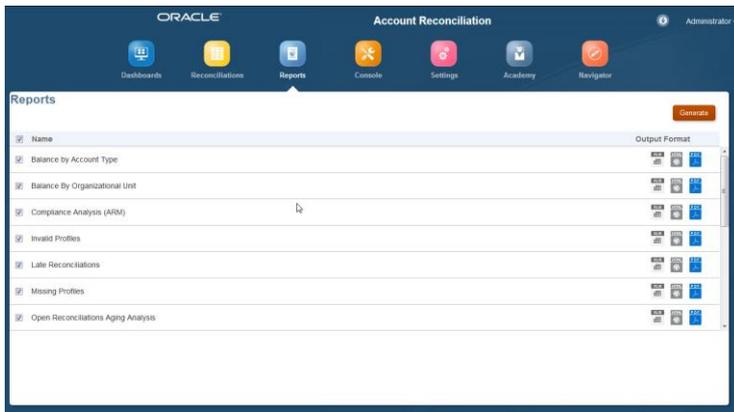
データシート

主なメリット

- 自動化を活用し、このプロセスに通常関連するセキュリティとリスクに包括的に対処することで、グローバルな勘定科目照合の効率的な管理・改善
- 主要な照合業務の自動化による財務担当者の効率精度の低下やリスク増大の恐れがない形で、照合作業の頻度の低減
- コラボレーションによる迅速かつ正確な照合の実現
- 明確な責任と期限
- 決算処理にかかる時間の短縮
- 数字の正確性に対する確証と信頼性
- 既存システムの変更は不要
- 重要な機密データは認証済みユーザーのみ閲覧可能という安心

自動調整

ほとんどの企業が、年間数千件の照合作業を処理しています。多くの場合、これらの照合業務のうち、残高ゼロや、基準値以下、またはその他のマイナーなリスクのタイプは、手動ではなく、システムによって簡単に行うことができます。Account Reconciliationでは、独自の自動照合ルールを定義でき、照合業務の開始時にシステムで処理することができます。この機能を活用することで、効率と精度を大幅に向上させることができます。



あらかじめ組み込まれたレポート機能を利用し、さまざまなレポート要件に対応することができます。

柔軟なフォーマット

カスタム・フォーマットを構築することもできます。

ベストプラクティスの事前構築されたフォーマットを活用するか、カスタム開発されたフォーマットを使用するかは、ビジネス上の選択であり、ソフトウェアはこうした選択をすぐにサポートすることができます。このような柔軟性は、成長中の企業にとって重要なポイントであり、ソフトウェアを活用してプロセスを進化させることができます。



ステータスや経過期間、パフォーマンス指標、コンプライアンス指標を監視するダッシュボードはデフォルトで用意されています。

Reconciliation Compliance の主な機能

- さまざまなERPシステムとの残高統合が可能
- 低レベルの残高を、照合に適したレベルまでに要約できるマッピング機能
- ユーザー定義のフィルターに基づいて設定可能な自動照合ルール
- 一括更新やインポート機能を含む、照合割当の維持に役立つ使いやすい機能
- 柔軟に設定可能な頻度および無制限の承認レベル
- 各勘定科目に合わせた柔軟なフォーマット
- 強力なフィルタリングとレポート機能

レポート/分析

照合サイクルには、運用とコンプライアンスという2つの重要な側面があります。運用面では、プロセスがどのように機能しているか、照合は行われているか、経過期間はどうか、などです。コンプライアンス面では、組織のポリシーや手順に対してどのように対処しているかに焦点を当てます。これにより、量だけでなく、プロセスの質も分析することができます。Account Reconciliationでは、この2つの分野に焦点を当てたダッシュボードを提供しています。このダッシュボードにより、プロセスの監視、エラーや遅延に対する即時対応、決算サイクルの有効性を評価・改善するプロセス分析などが可能になります。

差異分析

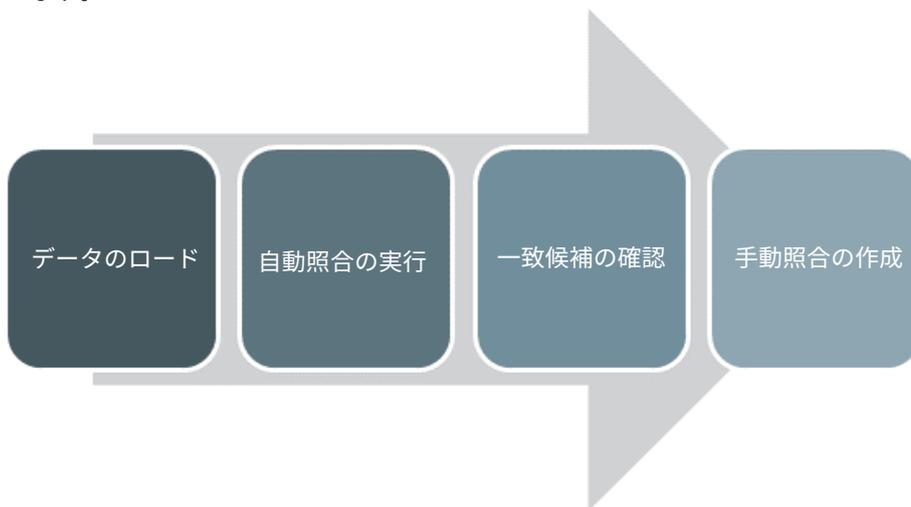
Reconciliation Complianceプロセスに組み込まれた差異/増減分析プロセスは、異常値の特定に向けて自動化されており、期間ごとに不測の残高増減が発生した場合、必要に応じて説明要求をすることができます。このプロセスは、お客様の組織が必要とする任意の変動期間（前月比、四半期比、前年比など）に対して設定することができます。予想される範囲内の勘定科目の変動は自動的に認証されますが、異常値は必要に応じて、解説や仕訳入力が必要となります。また、他のメンバーのサインオフが必要な場合は、ワークフローを適用することも可能です。

Transaction Matching

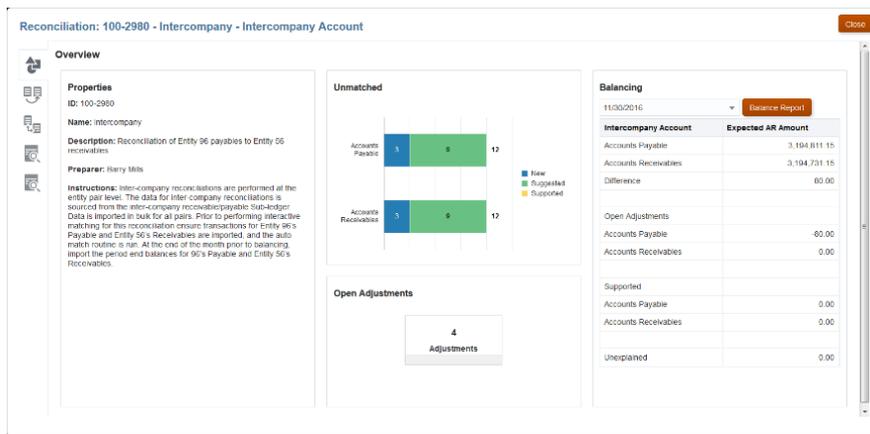
Transaction Matchingは、取引量の多い照合作業を自動化し、会社間、補助台帳、銀行勘定照合などの残高比較照合プロセスや、大量に発生する経過勘定や仮勘定などの単一ソースによる照合作業に対応しています。照合プロセスは、トランザクションのインポートから始まり、その後、自動照合プロセスの実行、照合候補の確認、手動照合の作成と続きます。定期的に、ビジネス・ニーズに応じて、取引に基づく照合が自動的に作成され、照合コンプライアンス準拠に必要な証拠が提供されます。

Transaction Matchingの主な機能

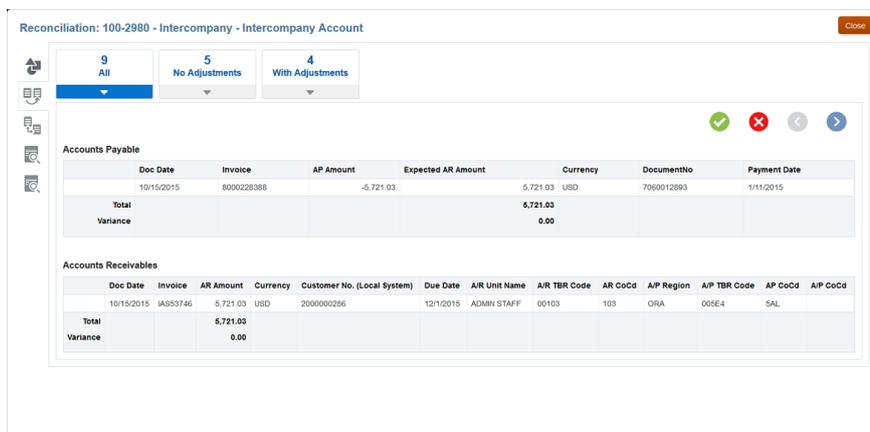
- 無制限のデータソースと、データソースごとの無制限の属性定義により、企業の最も複雑な照合にも対応
- 1分間に100万件以上のトランザクションを照合可能な自動照合エンジン
- 一致候補の確認や、手動照合の作成が可能で、ユーザー・フレンドリーでインタラクティブな照合機能
- 1対1、1対n、n対1、n対nのルール・タイプをサポートする柔軟な照合ルール
- 堅牢なデータ・エンリッチメントおよび正規化機能による照合成功率の向上
- 差異値に基づく自動調整と仕訳入力
- 特定の時点での照合の証拠を提供し、コンプライアンス要件の遵守に向けた、期末照合の完全な統合



照合ルールは、照合タイプごとに管理者が定義し、計算済みの属性を利用することで、パフォーマンスを最適化することができます。こうした属性は、元データを正規化またはエンリッチする機能を用いて作成され、より高い自動照合率によって大きな価値をもたらします。



インタラクティブな照合により、一致候補の確認や手動照合をサポートします。



照合の進捗状況を監視する照合サマリー

関連するEPMの業務プロセス

Oracle Fusion Cloud EPM は、以下の機能を提供しています。

- Narrative Reporting
- Financial Consolidation and Close
- Account Reconciliation
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting
- Enterprise Data Management

その他の関連ソリューション

- Oracle Fusion Cloud ERP
- Oracle Fusion Cloud SCM
- Oracle Fusion Cloud HCM
- Oracle Fusion Cloud CX

Oracle Fusion Cloud EPM

Oracle Fusion Cloud EPMは、常に進化し続ける今日のビジネス環境において、優れた業績を上げる上で必要な俊敏性を提供する、唯一の包括的かつ連携性の高いEPMソリューションです。

オラクルへのお問い合わせ

0120-155-096にお電話いただくか、oracle.com/jp/corporate/contact/にアクセスしてください。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oraclecloudclub

 twitter.com/oracletechnetjp

Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. この文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものでもありません。当社は、このドキュメントに関するいかなる責任も明確に否認し、このドキュメントによって直接的または間接的に契約上の義務が発生することはありません。この文書は、当社の事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することは禁じられています。

このデバイスは、連邦通信委員会の規則で規定されているとおりに認可されていません。このデバイスは、認可を取得するまで、販売またはリース用に提供されたり、販売またはリースされたりすることはありません。また、これらを行うことはできません。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120 免責事項:

データシートに免責条項が必要かどうかかわからない場合は、収益認識ポリシーをお読みください。コンテンツと免責事項の要件に関するその他のお問い合わせは、REVREC_US@oracle.comまでメールでお知らせください。